

金貴粉編・解説

在日朝鮮人 ハンセン病資料

在日朝鮮人資料叢書19

本資料集の刊行意義

▼本資料は国立ハンセン病資料館所蔵の『在日韓国・朝鮮人ハンセン病患者
同盟支部報』全三〇二号（一九六一―二〇一六）を収録した（但し、欠号あり）。
▼在日朝鮮人ハンセン病患者の日常生活、会員数・会計の諸データ、政府
への差別撤廃運動の動向を記録した同盟支部報を初めて公開した。
▼付属資料として、1「記録写真・入所者の人びと」入所者と寝食を共にし
ながら写真を撮り続けた写真家趙根在の写真集『この人たちに光を』より
抜粋。2「在日朝鮮人ハンセン病資料関係年表」を収録。
▼戦後の在日朝鮮人のハンセン病患者の動態を研究する上で欠かせぬ資料。

■体裁 全3巻・A5判・上製クロス装・ケース入り
■定価 本体90,000円＋税 ISBN978-4-89774-195-6 [分売不可]
■刊行 2020年2月刊

◆在日朝鮮人資料叢書20 宮本正明・宋恵媛編・解説
『在日朝鮮人文学資料集2（一九四六―六〇）／第一七集補巻』
本叢書第一四集の続編。在日朝鮮人学生、青年、キリスト教徒発行の一九五〇
年代を中心とした機関誌や文芸同人誌を収録。第一七集の補巻を同時収録。
2020年6月刊行予定 全3巻 予価56000円

在日朝鮮人資料叢書 在日朝鮮人運動史研究会監修

- 1 在日朝鮮人史資料 在日朝鮮人運動史研究会編 全2巻／24000円
- 2 在日本朝鮮人商工便覧 一九五七年版 在日本朝鮮人商工連合会編 6000円
- 3 戦後初期在日朝鮮人人口調査資料集 長澤秀編 全2巻／36000円
- 4 在日朝鮮人教育関係資料 佐野通夫編（品切） 全3巻／46000円
- 5 朝鮮人強制動員関係資料 山田昭次編（品切） 全2巻／24000円
- 6 在日朝鮮人留学生資料 裴鈴美編 全3巻／54000円
- 7 在日朝鮮人警察関係資料 福井讓編 全3巻／48000円
- 8 在日朝鮮人生活保護資料 金耿昊編（品切） 全2巻／36000円
- 9 在日朝鮮女性作品集 一九四五―八四 宋恵媛編 全2巻／32000円
- 10 関東大震災朝鮮人虐殺裁判資料 山田昭次編 全2巻／36000円
- 11 資料メディアの中の在日朝鮮人 外村大・韓載香・羅京洙編 18000円
- 12 神奈川朝鮮学校資料 大石忠雄編 全2巻／36000円
- 13 朝鮮人強制動員韓国調査報告 龍田光司編 全2巻／36000円

在日朝鮮人文学 資料集 一九五四―七〇

■宋恵媛編／一九五〇年代半ばから
六〇年代を中心として刊行された、多彩
な日文学雑誌（朝鮮文化・韓国文芸
・鳳仙花文芸等全一七誌）を収録した
初の資料集。全3巻／56000円

日本朝鮮研究所 初期資料 一九六一―六九

■井上學・樋口雄一編／戦後日本の朝
鮮研究はどの様な形で新たな出発を
し、どの様な課題を抱えていたのか、
創設期及び初期の内部資料を収録。
全3巻／54000円

『セチヨソン』 新朝鮮 地方版 一九五〇―五五

■鄭栄桓編／朝鮮戦争中に在日朝鮮人
が結成した非公然組織「祖国防衛委員
会」機関誌。入手困難な西日本・九州、東
京等発行の地方版他、全国版欠号分も
収録。A4判／全2巻／46000円

在日朝鮮文学会 関係資料 一九四五―六〇

■宇野田尚哉編・宋恵媛解説／一九四
五年の「解放」から六〇年までの在日
朝鮮人文学の空白を埋める貴重な資
料。「在日朝鮮文学会」の機関誌を中
心に収録。全3巻／54000円

在日朝鮮人国勢 調査資料 一九四〇

■木村健二編・解説／一九四〇年に日
本「内地」に居住する朝鮮人を含む第五
回国勢調査が実施された。本調査は産
業別・職業別・年齢別の戦前唯一の在
日朝鮮人調査。全2巻／38000円

金貴粉（国立ハンセン病資料館主任学芸員）編・解説

在日朝鮮人 ハンセン病資料

全3巻

『在日韓国・朝鮮人ハンセン病患者同盟支部報』一九六一―二〇一六

同盟発才一二四号 （支部報）

一九七〇年六月六日

在日外国人ハ病患者同盟

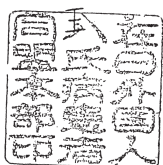
委員長 金 奉

支部 各位 貴下

全患友七月行動参加について

本格的な梅雨期も近く、毎日むし暑い日が続いておりますが、支部各位におかれましては、御健勝にて御活
躍のこと、拝察申し上げます。

さて、全患友ニュース、支部報告で、すでに御承知の如く、全患友才十七回支部長会議に於て決定されたとお
り、不自由舎看護切替促進、特別措置の実施、収入認定実施反対と、この三点を重点項目とし、七月に大々的な
行動を起こすことになり、すでに各園自治会に対し、その準備の指示が出ており、各自治会でも実行委員会が組織
され、着々と準備が進められていることと想われますが、私ども同盟といたしまして、この三点には関係が深
く、中でも特別措置の件につきましては特に関係が強く、先般、自民党副幹事長の二階堂氏の発言により、提出
年金の適用を受ける者の枠が大幅に広げられましたが、これもわれわれ外国人および日本人療養高令者には関係
がなく、厚生省および政府の対策に、いさゝか矛盾を感じるのでありますが、昭和四十六年度の予算で、ぜひ、



在日朝鮮人運動史研究会監修

在日朝鮮人 資料叢書19

緑蔭書房

●下記の書店にお申し込み下さい。

緑蔭書房

〒173-0004 東京都板橋区板橋 1-13-1
電話 03 (3579) 5444 FAX03 (6915) 5418
[消費税が別途加算されます]

日本国内のハンセン病療養所には多い時には七〇〇人以上の在日朝鮮人が入所していた。在日のハンセン病発病率が高いのは、この病気が栄養や衛生状態が悪い場所で発病する可能性が高く、植民地支配下において生活水準を低く押し下げられていたためである。

ハンセン病療養所における朝鮮人入所者たちにとって、その苦難は一四五年の解放を迎えても終わらなかった。多磨全生園入所者自治会発行の『俱会一処』には、朝鮮人入所者の金相権によって、「戦後起こったハンセン病療養所に住む在日朝鮮人の問題の中でも、出入国管理令による「らい患者の強制送還」と、祖国の分断による一時的な思想対立、さらに一九五九年の国民年金法施行後一〇余年にわたって闘われた差別撤廃のための処遇改善運動が辛く、忘れられないことであった」と記されている。

療養所内の朝鮮人団体は戦前にもあったが、戦後は療養所内の様々な問題解決を目的にしたものに変化し、朝鮮人入所者のいる全園に結成されることとなった。やがて全国組織につなげ、自らの闘いを結実させていくことを決める。それが全国ハンセン氏病患者協議会（現「全療協」）傘下の組織として一九五九年一二月に結成された在日朝鮮人韓国人ハンセン氏病患者同盟（以下「同盟」）であった。

本資料は一九六一年から二〇一六年まで「同盟」によって発行された全国のハンセン病療養所における朝鮮人団体（支部）を結ぶ文書である。発行当初は主に経済格差是正運動の進捗状況について毎月報告されており、活発な活動が垣間見られる。その後、出入国管理体制における外国人の処遇問題、祖国への里帰り実現についての報告が始める。一九八〇年代になると、各園の近況報告とともに韓国への水害義援金を送るなど、本国への支援が報告され、朝鮮人入所者との関係性も具体的に示される。本資料はこれまで広く知られることのなかった日本のハンセン病政策と外国人政策との関係を伝えるだけではなく、本国との関係の中で翻弄されながらも生き抜いた人々の貴重な軌跡である。

金貴粉（国立ハンセン病資料館主任学芸員）



長老と歩く 多磨全生園 1981（昭和56）年
（国立ハンセン病資料館所蔵）

員会

- 第三七号 一九七一年五月一八日 第六回支部長会議々事録 於長島愛生園
- 第二四二号 一九七二年二月二日 復活折衝同行陳情について／各支部人数報告
- 第二四六号 一九七三年六月五日 全患協第二〇回支部長会議への要請書提出の報告
- 第二四九号 一九七三年一月二日 小鹿島療友への救援活動について
- 第二五三号 一九七四年一〇月一日 各支部員数現在調査依頼の件
- 第二五七号 一九七五年六月一日 全患協第二二回定期支部長会議へ提出の請願書について（外国人患者の年金適用及び外国人患者の法的処遇に関して他）
- 第二六〇号 一九七六年二月一日 予算復活行動と今後の課題／年末救援金について
- 第二六四号 一九七六年一〇月二日 基本処遇の法制化について
- 第二六六号 一九七七年五月二日 これからの問題点について／請願書 在日外国人ハ氏病患者の基本処遇の法的保障について
- 第二六七号 一九七七年一月一六日 基本処遇の法制化問題、その後の動きについて
- 第二七二号 一九七八年七月三日 「外国人障害者に対する国民年金適用についての国との交渉」
- 第二七二号 一九七八年一月九日 「外国人処遇法制化問題に関する全患協よりの運動経過報告」
- 第二七四号 一九七九年五月一〇日 請願書 在日外国人ハ氏病患者の基本処遇の法的保障について（全国ハ氏病患者協議会会長宛）
- 第二七九号 一九八〇年五月三〇日 運動目標と心構え「処遇が具体化しなかった要因の背景／患者給与金問題他」
- 第一八〇号 一九八〇年八月一日 報告事項 全患協六月行動に於ける在日外国人障害者処遇に関する厚生省年金課の回答及び関連新聞記事の紹介
- 第一八一号 一九八一年三月二〇日 御願書 一九八一年五月八日 在日外国人ハ氏病患者の基本処遇の法制化について
- 第一八四号 一九八一年一月二二日 菊池支部の現状について「支部存続の危機」
- 第一八五号 一九八一年二月二二日 「在日韓国・朝鮮人の国民年金を求める会」との懇談について／関東巡回講演会での講演「ハンセン氏病に対する偏見と差別について」

収録資料（抜粋）

第1巻 第一号―第二〇六号（一九六一年五月―一九六八年三月）

- 第二号 一九六一年六月一八日 同盟の名称についての提案／現在同盟員会員数は四三四名
- 第二二号 一九六一年八月 重症者の処遇改善に関し今後の運動方針について
- 第三二号 一九六二年四月 支部長会議開催について／報告事項（厚生省との陳情における口約の件）
- 第四四号 一九六二年八月三一日 全患協の動きについて
- 第五一号 一九六二年一月三日 一〇二五再度厚生省陳情に関する報告／朝総中央本部社会部副部長言明／帰国者希望に関する件／在日ハンセン氏病朝鮮人患者同盟各支部所在地及び人員数と名称と代表者
- 第五四号 一九六二年一月 一九六二年度同盟経過報告書／同盟三年間の経過／当時の同盟目標と活動方針
- 第五六号 一九六三年三月一〇日 在日ハ氏病朝鮮人患者同盟本部の多磨全生園への移転の挨拶
- 第五八号 一九六三年四月三〇日 帰国問題について―朝聯中央本部に於ける面談の内容
- 第五九号 一九六三年五月三〇日 同盟本部運動状況報告／昭和三八年―一三月分会計報告（光明の部）
- 第六一号 一九六三年七月一日 第八回全患協支部長会議報告並びに書面陳情について
- 第六二号 一九六三年八月一七日 中央陳情／外国人処遇問題報告／厚生省における補助金増額の決定の件
- 第六七号 一九六四年三月五日 本部及び多磨支部の厚生省、朝鮮総聯、居留民団への陳情報告
- 第六八号 一九六四年三月二五日 全患協中央陳情について／衆、参両議院及び厚生大臣陳情について／別紙 第四回国会・衆議院予算委員会第二分科会議録
- 第七一号 一九六四年五月二九日 全患協第九回支部長会議に於ての外国人処遇についての決定及び代表者招集について／支部役員紹介
- 第七七号 一九六四年八月二六日 厚生省交渉について／本省交渉内容について／交渉についての本部見解
- 第七八号 一九六四年九月二五日 第三国人特別慰安金増額の件／支部長会議について
- 第八四号 一九六五年四月二六日 在日外国人ハンセン氏病患者同盟／第四回支部長会議議事録
- 第八八号 一九六五年一〇月一日 外国人特別慰安金増額運動について／支部便り
- 第九三三三 一九六六年三月三一日 書面会議開催について（四一年度の運動方針について）外国人特別慰安金増額運動について／退所者の希望による本国（北鮮）帰還要請について／外国人特別慰安金受給者実態調査について
- 第九六号 一九六六年六月二七日 戦争による被害事例調査について／奨学金援助依頼について
- 第一〇〇号 一九六六年二月二八日 厚生省陳情実行について国会議員陳情の報告／総聯への陳情
- 第一〇四号 一九六七年八月二八日 全患協第二次厚生省交渉への同行陳情について／本部移管問題について
- 第一〇五号 一九六八年一月二五日 全患協「復活折衝」への同行陳情について／同盟本部移管について
- 第一〇六号 一九六八年三月九日 支部長会議開催について／第五回支部長会議議事録／資料 在日外国人ハンセン氏病患者実態表・基本給の結核生保患者との対比

第2巻 第一〇七号―第一八五号（一九六八年四月―一九八一年二月）

- 第一一三三 一九六八年二月二七日 四三年度復活予算要求一二月行動の報告
- 第一一五号 一九六九年三月二〇日 四三年度外国人特別慰安金の増額について／同胞老令者の処遇について
- 第一一七号 一九六九年六月一五日 本年度同盟活動方針について／菊池支部提案
- 第一一八号 一九六九年八月五日 全患協七月中央交渉に参加報告／会計報告書／七月中央交渉
- 第一二二二 一九七〇年三月二〇日 第五回支部長会議議事録 於多磨全生園／在日外国人ハンセン氏病患者同盟規約
- 第一二四号 一九七〇年六月六日 全患協七月行動参加について
- 第一二三三 一九七一年七月九日 各課回答集／予防課（退所者対策の推進／強制隔離政策によって受けた損失の補償）総括会議で出された主な意見／八月行動について／「菊池支部七月行動総括」常任委

第3巻 第一八六号―第三〇二号（一九八二年三月―二〇一六年四月）

- 第一九一三 一九八二年一〇月一八日 全患協十月行動について「ハ氏病療養所の改善要求／年金・給与問題」／在日外国人ハ氏病患者年金該当者調べ
- 第一九六六 一九八三年一月三〇日 年金裁判の勝利を祝う会出席について
- 第一九八号 一九八四年五月二二日 年金の適用について／外国人登録法改正の動き
- 第二〇一三 一九八五年二月八日 社会保険庁へ年金適用を要請
- 第二〇五五 一九八五年七月一〇日 社会保険庁要請について／同盟会員数調査表 一九八五年四月／韓国・朝鮮人の障害年金受給状況
- 第二一五五 一九八七年八月二二日 同盟会員数調査表／年金に関する調査表
- 第二一八号 一九八八年六月二九日 社会保険庁要請について「外国人に対する年金適用促進の要請活動」／支部便り 韓国の来客と懇親会（多磨全生園他）
- 第三一三三 一九八九年五月二五日 同盟会員数及び年金受給者調べ
- 第三一八三 一九九一年二月二〇日 今後の同盟の在り方について（各支部よりの意見）
- 第三二七三 二〇〇五年一月九日 ソロクト・楽生院ハンセン病訴訟の判決と支援について／「判決」／厚生労働省前の抗議行動
- 第二八五五 二〇〇八年二月一五日 私たちを巡る情勢について（ハンセン病問題基本法」の制定を目指す一〇〇万人署名／歳末相互扶助運動慰問金について
- 第二九六三 二〇一三年四月五日 私たちをめぐる情勢について「全療協の実力行使声明・要求他」／朝鮮学校生徒の慰問について

付属資料 1記録写真・入所者の人びと、2在日朝鮮人ハンセン病資料関係年表

在日朝鮮人ハンセン病資料関係年表

- 一九五一年一〇月 出入国管理令の公布により、「らい患者の強制送還」という大きな問題が新たに浮上。多磨全生園の七八名が厚生省他関係諸機関に、強制送還しないように嘆願書を送付。他の療養所でも抗議嘆願書を送付。
- 一九五九年 四月 国民年金法制定。外国人入所者は適用除外となり動搖は深刻となる。当時、年金法に適用される障害をもつ朝鮮人は三〇〇人余。
- 一九五九年 二月 年金問題における民族的・経済的格差・差別は正のため朝鮮人入所者の運動が起り、全国組織を結成（現・在日韓国・朝鮮人ハンセン病患者同盟）。最初の同盟本部は栗生泉果園群（馬県草津町）
- 一九六〇年 戦前から朝鮮人団体が結成されていた園もあったが、国民年金法制定を前後し、療養所一〇カ所に団体が次々と結成された。
- 一九六一年 五月 同盟支部報創刊号を出す。
- 一九六二年 入所者一律の生活費支給を求めて、その後七一年にかけて運動を進める。全療養所の朝鮮人入所者数は七一六名。
- 一九六四年 二月 同盟本部が多磨全生園に移る以降、長島愛生園→菊池恵楓園→多磨→長島→邑久光明園→多磨→菊池→邑久→長島→多磨→栗生→多磨と移動）
- 一九七二年 全ての入所者に障害者年金一級相当額を受給するということが実現する。
- 二〇一四年一月 この時点で、朝鮮人入所者は八三名男性三四名、女性四九名、平均年齢は八四・八歳（但し二〇一六年五月時点。二〇一八年一月現在で、入所者数は五二名となる）。
- 二〇一六年 四月 同盟支部報は三〇二号で終刊となる。